

観光案内人便り

十二単着付け体験

十二単着付け体験

11月13日 紅葉で色づき始めた谷保。さとやまに佇む「古民家」で「ハクビ京都着物学院」の協力を得て十二単の着付け体験を行いました。この日は秋晴れでしたが風が強く、開放された室内に枯葉が舞い込む状態だった。参加者は午前・午後それぞれ6〜8名の参加でした。12歳から各世代の人々が十二単の着物を着て、「うっとり」とされていました。お子さんの晴れ姿にご夫婦で写真撮影に夢中なご家族も。

下は今日の「夢舞台」にてお披露目と撮影。左は学院の皆さん最後の打ち合わせ中



国立観光案内人・行動記録
第157号
2022.11.13
十二単着付

皆さんの着付け開始前にモデルさんで着付けの説明。



十二単の着物と小物。数枚の重ね着にひもは僅か2本のみで着付けされ、重さは約15kg超とか、2人がかりで所要時間は30分



上5枚が十二単着付けの様子である。まず右側から白装束に袴姿のモデルさんが衣紋者と共に登場、次に5枚ほどの黄色い着物(袴:うちき)それも徐々に色濃くなっている(今回はこの時期銀杏の色目で黄色にした)。次に紫色の着物を2枚重ね着(上着:うわぎ)、その上に打ちかけの様な水色の柄の入った着物を掛ける。最後に後方に袴の半分にしたような物(裳:も)を着けて完成となる。30分もかかるのが解る。

着付けは「衣紋者」と呼ばれる二人が前後に分かれて行われる。左が前衣紋者で主として着付けを行っている。

編集後記
11月8日の「皆既月食」があったから言う訳ではありませんが、竹藪の生えた古民家に沢山の「かぐや姫」が突然現れたように平安の絵巻を思わせる様な1日を過ごさせて戴きました。(河本記)

さて娘の撮影が終了、今度は家族揃っての記念撮影。一生の思い出の一日かぐや姫だった



娘の晴れ着姿にご夫婦揃ってカメラ撮影、緊張しているんだろうな、親子共々に

着付けが終了、記念撮影。立ち姿が一層凛々しく見える。平安時代は殿方に顔を見せる事なく、扇で顔を隠して対応していたらしい。勿論声を出すでもなく、短冊に認めて伝えたようである。何とも面倒くさい事ですな。

